

生きがい

西野 ハナさん (87歳)

好きなことをずっと続けていきたい



水墨画教室にて

生きがいを持つことは大きな幸せです。自分が好きなことややりたいこと、幸福感を得られるものを生きがいといいます。生きがいは夢や目標であったり、人の役に立っていることであったり、自分を生かせることや充実感を感じられることなどさまざまです。本市の各公民館には、多種多様な生涯学習の機会が設けられています。

今回は中央公民館で十和田水墨画同好会で4年間活動し、編み物を80年続け、さまざまな事に興味を持って活動している西野さんに、日ごろの楽しみ方や元気の秘訣について伺いました。

わたしは大正12年生まれで、尋常小学校1年生のときから編み物を始め、高等女学校では和裁専科正教員の免許を取得しました。8人兄弟の一番上でしたので、女学校を卒業し16歳から働きました。18歳のときに田名部町（現在のむつ市）に引っ越しをして、昭和22年、25歳のときに結婚をきっかけに三本木町（現在の十和田市）にきました。

水墨画を始めたきっかけは、中央公民館の集まりの帰りに水墨画の作品を見て感動したのがきっかけです。

十和田水墨画同好会（太田諭代表）で活動して4年目になります。水墨画同好会に入っつてうれしい事は、みんな優しく雰囲気も良いことです。思い通りの作品を描けないときもありましたが、みんなの作品を見て参考にしています。

自宅では文化刺繡やつまようじ人形、始めてから今年で80年になる編み物をやっています。作った作品は自宅に飾ったり、友達にあげたりしています。また、つまようじ人形については、ちとせ小学校の3年生に3年間作り方を教えました。自分でやってきた事が役に立っつてうれしかったです。

元気の秘訣は何でも好き嫌いなく食べ



文化刺繡



水墨画



つまようじ人形



十和田水墨画同好会の皆さんと記念撮影

